旧長谷川邸の具体的活用イメージ

「生活空間の再生」に ICT を活用した情報提供を加えることで、近世豪商文化をいきいきとよみがえらせます！

（※ICT: 情報通信技術の略）

旧長谷川邸内に収蔵資料 6 万点の中から生活道具などを展示することで往事の生活空間を再現します。更にタブレット端末やスマートフォンなどの ICT をその再現空間にかざすことで、詳細な解説や当時の生活風景写真や動画などが現れるよう工夫します。

×

情報提供端末、タブレット端末やスマートフォンなどの ICT 活用

「松阪文化」の教養が身につく体験プログラムの提供から、「松阪文化」を全国に向けて発信する話題性あふれるイベント開催まで、多彩に展開！

旧長谷川邸の建築・庭園に見られる「茶の湯」の数寄や遊び心にふれながら、「茶の湯」を軸にした体験プログラムを提供するほか、「松阪文化」を全国に向けて話題性あふれるイベント（講演会・展示会等）の開催まで、多彩な活動を展開します。

●教養に触れる・教養が身につく体験プログラム例

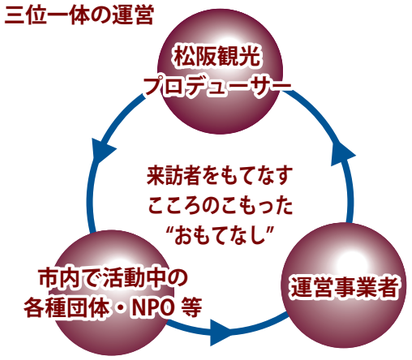
- 茶の湯（裏千家）
- 生花
- 書道（水墨画）
- 和服着付け
- 日本舞踊　など

「松阪勝覧館」と旧長谷川邸の運営方法

三位一体の運営による松阪の魅力発信

現在、公共サービス質的向上と民間企業のノウハウを活かす指定管理者制度を活用するケースが増えていますが、単に民間企業への委託は無責任な丸投げに取られかねません。
「松阪市観光戦略会議」でも議論されたとおり、観光振興を牽引するプロデューサー、すでに市内で活動中の各種団体・ＮＰＯ等の組織、同類施設の運営事業者などの三位一体的な推進体制の整備が必要と考えられます。
松阪市観光振興を戦略的に牽引できるプロデューサーと共に、地域に愛着を持つ市民や若者たちが参画し、施設運営にノウハウを持つ企業の支援をうけることで、長期的な雇用創出や経済活性化につながります。

三位一体の運営



「松阪もめん手織りセンター」の発展的展開と跡地活用の考え方

「教養と実業の聖地・松阪」の存在感を高める段階的な事業展開

「松阪もめん」ジャパン・ブランド化の推進拠点整備のほか、土地の記憶再生による新たな観光資源開発をめざします！

現　状

松阪もめん
手織りセンター

［課題］
老朽化・狭隘化

❶「松阪もめん」の発展的展開

短期的展開

機能移転・機能強化

観光交流拠点施設（別館）
手織り体験・作品販売

旧長谷川邸のギャラリー活用
作品発表（発信）

中長期的展開

将来構想

ブランド強化事業
地元ブランドからジャパン・ブランドへ

松阪もめん
ブランド推進機構の整備

「松阪もめん」を全国に、海外へ発信

松阪もめんブランド推進機構の整備

粋な江戸っ子が愛した「松阪もめん」。世界が日本的なものへの関心を寄せる潮流にあって、「松阪もめん」のジャパン・ブランド化を戦略的に構想・実行する機関として公共と民間のパートナーシップの強化による創設、運営をめざします。
「松阪もめん」の服飾文化研究をはじめ、新商品開発部門や PR 営業（販売）部門を備えます。将来的な松阪の産業育成をめざします。

❷「松阪もめん手織りセンター」跡地活用

短期的跡地活用

観光促進の利便施設活用

観光交流拠点施設・旧長谷川邸の
駐車場として活用

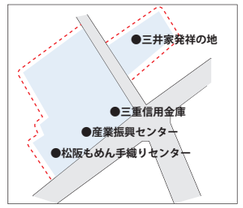
中長期的跡地活用

将来構想

土地の記憶再生事業

市民とともに三井家を
迎えるムーブメントづくり ▶ 松阪のまちの魅力を高める
新たな観光資源開発

●中長期的跡地活用の対象エリア



「土地の記憶再生事業」の考え方

将来のまちづくりを見据えた「新たな観光資源開発」への取り組み

三井家発祥の地を擁する松阪。現在、三井家本邸の敷地には、「松阪もめん手織りセンター」「産業振興センター」が立地するほか、民間事業者が展開しています。官・産・民が一体となって、松阪の歴史文化価値の創出を将来のまちづくりの基盤とすることをめざして、土地の現状機能の移転や集約、新たな機能の導入について検討することが松阪市にとって有効と考えます。

新たな観光資源開発

松阪と三井家のゆかり顕彰事業を通じて三井家本邸跡の将来構想を描き出します！

市民とともに三井家を迎えるムーブメントづくり

松阪と三井家のゆかりについて、松阪市、市民、有識者、三井家などの関係者による共同の顕彰事業をスタートします。松阪の歴史文化に新たな光があてられることになり、その取り組みには、松阪のまちの価値を高めていく効果が期待されます。顕彰事業を通じて得られた松阪の歴史文化価値の表出を土地活用の基盤に据えて、将来構想を描き出します。

顕彰事業例

三井家資料・コレクションの
デジタルアーカイブスと公開

新たな観光資源として想定される施設像

三井家凱旋！

三井家顕彰記念館

松阪と三井家のゆかり顕彰事業の成果を集約・公開する施設として整備を検討します。松阪の歴史文化の特長を表し、わが国の近世商業・経営・生活文化に関する知見を得ることのできるものとします。

三井ギャラリー

（三井家コレクション公開施設）

三井家が日本文化の形成に果たした役割に着目して、三井家の茶文化や所蔵の美術工芸品の公開を行うことのできる施設として検討します。

＋

（観光振興・地域振興の拠点化に向けた機能集約）

まちづくり推進センター

現状の「産業振興センター」機能に、これらの協業によるまちづくりの推進拠点としての機能を付加した整備を検討します。

想定機能

- 「産業振興センター」機能
- 「市民協業センター」機能
- 「松阪経営文化塾」機能
- 「松坂もめんブランド推進機構」機能

〈整備・運営手法について〉

PPP（PFI）事業や指定管理者制度など、公共と民間のパートナーシップに基づく事業手法の導入を検討します。